

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101439		
法人名	たくみ株式会社		
事業所名	グループホームベルジ前橋たやの家		
所在地	群馬県前橋市上泉町1870-3		
自己評価作成日	評価結果市町村受理日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和4年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>安心・安楽・安全な暮らしを送りながら、その人らしさも発揮しながら事故がない様配慮している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ありがとう」は利用者への究極の接遇と捉え、利用者に「ありがとう」と言う事や、利用者から「ありがとう」と言われるように取り組んでいる。そうしたなか、利用者に「ありがとう」と言われることや、管理者は、職員のやりたい事や得意分野を活かした役割分担をイベントを企画して積極的に関わってもらい、職員の働きがいに繋がられるようにしている。食事においては、自立支援や誤嚥防止のための食器や自助具を使って、入居者が自分のペースで食事を楽しめる支援に努めている。会社としてペーパーレス化に取り組み、介護記録の電子化により負担軽減や記録の時間の短縮を図っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼にて唱和している。	事業所として、「ありがとう」と言える、「ありがとう」と言ってもらえることを掲げ、職員と入居者が互いに言いあえるような関係づくりに取り組んでいる。管理者は、自分の親を預けたいと思える施設にしようと、職員に働きかけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事やイベントに参加していた様ですが、現在は行事やイベントも感染症の為に中止になっている。	自治会長への挨拶や、区費の集金時に会話をするなど、関わりを続けている。今後に向けて、地域行事への参加や外出行事が可能な方法を検討しており、事業所の力を活かした取り組みに発展させたい考えがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は施設を知って頂く事で認知症の理解を深めていける様施設内行事への参加を呼び掛けていた様ですが、現在は感染症の流行の為出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近では感染症流行や、管理者交代の引き継ぎが不十分だったりで開催出来ていなかったが、10月より書面を送付して取り組みの報告をしている。	現在は、コロナ禍のため開催ができないため、行事や事故報告をまとめ、自治会長には持参、市には郵送している。その際には、それぞれに意見がいただけるよう書面と返信用封筒を入れておく。今後は、家族にアンケートを実施していく予定がある。	コロナ禍でも、参加予定者からの意見が反映できるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険の手続きや、サービスの利用方法等で市役所を訪ねたり、電話で確認したりしている。	書類提出や事故報告はメールで送信し、制度や加算等の問い合わせを行っている。また、研修の案内もあるが、コロナ禍のため、現在、事業所の方針として、参加を見合わせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し会議や研修を実施し、職員が見守りの出来る時間帯はホール入り口のドアや玄関ドアを開けている。	法人全体の取り組みで、3ヶ月に1度虐待の研修を行っている。立ち上がりなどの、入居者の行動の意味や目的を確認し、行動を止めるのではなく、安全を確保しながら自由な暮らしができるよう、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修を実施し、虐待への認識を高めると共に、虐待の芽チェックリストを活用して、職員へ注意喚起している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に後見人制度を利用されている方もいらっしゃるの、制度を円滑に利用できる様、ご家族・後見人の方と連携を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は口頭で説明を行い、疑問点の確認や意向を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	最近では感染症の為面会が思う様に実施できていないが、電話や来訪時に頂いた意見や要望については、管理者及びユニット間で共有し、会議や申し送りで話し合い改善を図れる様努めている。	家族の来訪時や、電話連絡の際に、意見や要望を聞くようにしている。コロナ禍で警戒度の変更に伴う面会時の事業所の対応を家族に説明し、そうしたなかで、面会方法についての要望に出来る限り応えるなど、意見や要望を職員間で話し合っている。	運営推進会議の内容を伝えるなど事業所の取り組みを家族に伝えるような機会づくりを検討し、そこから運営に関する意見の表出につながることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や要望に対して、常に聞き入れ業務に反映する様努めている。	必要物品の購入等、職員からの意見や要望に随時対応している。必要時には、会社に要望書を提出して意見の反映に努めている。職員のやりたい事や得意分野を活かした役割分担をする事で、職員のモチベーションにつながるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の職員の勤務状況を把握し、労働時間の適正化等、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ジョブメドレーアカデミーのオンライン研修のほか、グループ内の研修センター主催のオンライン研修を中心に、受講機会を確保している。また、新人職員は、経験のある職員が担当についてマニュアルに沿って業務を覚えてもらえる様援助している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の流行により、外部との交流や勉強会の参加は激減したが、グループ内の会議や相互訪問で、サービスの質を向上できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際しては必ず事前面談を行い、生活状況を把握する様努め、本人の不安や希望を十分に受け止める様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものや事を理解し、事業所としてどの様な対応ができるか、事前に話し合いを行っている。ご家族からの意見・要望は、事前に職員に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げる様にしている。他のサービスや制度、関係機関との連携についても説明、相談させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識ではなく、入居者様に敬意を持つ中で穏やかかつ和やかな生活を送れる様、声かけや場面作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染症の流行で面会もままならない中で、ご本人が希望される事や必要とする物はご家族へお伝えし、ご家族と協力し、可能な部分の支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	群馬県の警戒レベルや会社の判断にもよるが、可能な限り面会や電話での連絡を取り持ち、継続的な交流ができる様支援している。	馴染みの人や場所は、入居者の過ごしてきた場所であり環境と捉え、入居者の生活歴や日々の会話の中から引き出すよう取り組んでいる。そうしたなかで、入居者の住んでいた地域の店や特徴を題材にして会話を広げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく過ごせる時間や気の合う者同士の関係が上手くいく様職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も状況に応じた施設の紹介や相談をいつでもお受けできる事をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情などから、意向を汲み取れる様努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得て、希望に沿った対応が行える様努めている。	入居時に家族から要望を聞き、事業所においても珈琲や飲酒を楽しむなど、希望に沿った対応に努めている。また、喫煙習慣のある方にも、環境を整えている。職員は声をかけて入居者の言葉や表情を観察して、要望や希望を引き出すように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、ご家族や関係者から今までの生活状況を把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活リズムの理解把握に努め、できるだけご本人のペースで生活を送れる様援助している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人や家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め意見交換やモニタリングを行っている。	介護計画・モニタリング・担当者会議・日々の記録が実施され、書式に基づいて記録している。日々の記録は、実施した記録だけでなく、各勤務帯での入居者の様子(表情や言葉)が記載されている。介護記録の電子化により、記録時間の短縮につながっている。	日々の記録は、介護計画にそった記録となるような工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に食事、水分、排泄等の他、身体的状況や日々の暮らしの様子を記録している。いつでも職員が確認できる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限りご本人、ご家族の希望、要望に対応できる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症の流行により、地域や外部との交流がほとんど行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、ご本人、ご家族の意向を確認しながら、希望される医療機関で診察が受けられる様支援している。協力医がかかりつけ医や協力医に主治医変更する場合は、往診でのフォローも受けられる。	かかりつけ医の選択は、入居時に家族と話し合っ決めて決めている。事業所の協力医への受診は事業所で対応し、協力医以外の受診は、家族が対応している。いずれのかかりつけ医でも薬の変更は申し送りノートに記入して、職員間で共有している。尿管カテーテル挿入の方に、協力医が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を行っていて、連携を取っている。日々の気づきや変化を訪問看護師に伝え、主治医へ上申し指示を頂き、その内容も訪問看護師に伝え、必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に本人への支援方法を医療機関に情報提供し、家族や主治医と回復状況の情報交換をしながら、早期の退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における対応等の指針を作成しており、入居時に本人または家族等に説明を行っている。状況の変化に応じて本人や家族ならびに主治医、訪問看護師、関係者で話し合いを持ち、家族等の意見を確認しながら全員で方針を共有している。	事業所では指針を作成し、入居時に説明を行っている。看取りには、協力医や訪問看護との協力体制が作られている。1年以内に看取りの実施はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制がマニュアル化されており、それに従い、迅速に対応している。マニュアルの整備と研修への参加で実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの整備と年2回の消防訓練を実施している。また、災害時用に備蓄食をストックし、年2回備蓄食訓練を行い、ローリングストックを行っている。	年に2回、火災を想定した避難訓練を行っている。備蓄食である水で戻せるごはんや缶詰を実際に作って、入居者に提供する備蓄食訓練も実施している。隣接して系列の施設があり、災害時には協力を駆けつける体制があり訓練にも参加している。地域との連携は課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の意思や気持ちを尊重し、さりげないケアを心掛け、自己決定しやすい環境作り、言葉掛けをするよう努めている。	日々の暮らしのなかで、声をかけて促し、入居者本人に決めてもらうようにしている。嫌がることはせず、時間や人を変えてアプローチしている。トイレは自室のトイレを使用し、ドアを閉めることを基本にしている。見守り時は、トイレのドアの外に立ち、直ぐに対応できるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方には表情を読み取ったり、難聴の方にはハッキリと大きな声で声を掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりの体調や気分に合わせて生活が送れる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の生活習慣に合わせた支援をし、日常的にその人らしさが出せるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の力量に応じて行事食作りに参加していただいたり、下膳やおしぼり巻き、エプロンたたみを手伝っていただいている。	配食サービスを利用して、主食とみそ汁を事業所で調理している。補助具や食器を工夫して、一人で個々のペースで食事が楽しめるようにしている。利用者は、下膳やおしぼり作り、エプロンたたみ等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は関連施設の栄養士が作成し、食材もそこから配送され、バランスの取れた食事を提供している。食事や水分摂取量は記録に残し、職員間で情報共有しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内を他人に触れられる入居者の気持ちに配慮しつつ、一人ひとりの方に応じた歯磨きの手伝いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日常生活の観察から、排泄パターンやサインを把握し、自尊心を損なわないように排泄できる事を大切にしている。	定時の排泄支援から個々の排泄パターンを把握し、対応している。立位が保てる入居者はおむつ対応の方でもトイレに座る機会とすることを、職員間で共有して支援している。ラジオ体操やオリジナル体操、歩行する機会を持ち、排泄動作の維持を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操やリハビリ体操を日課に取り入れ、便秘の予防に努めている。個人の身体状況に合わせてゼリーやスポーツ飲料を提供し、水分摂取の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を嫌がる方へは時間をずらしたり、対応する職員を変えたりして対応している。また季節に合わせて菖蒲湯やゆず湯を行ったり、入浴剤で香りを楽しんでいただける様努めている。	週に2回、入浴する機会を設けている。希望があれば、入浴日以外でも対応している。1対1で脱衣から入浴、着衣までを対応している。季節の湯や入浴剤を使い、会話をしながら楽しむ事ができる入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状況や個々の生活パターンに合わせて、休息の時間を設けている。夜間眠れない方には付き添い、気持ちを穏やかにして眠りにつけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルやほのぼのに内服薬の情報があり共有している。内服方法に誤りがないようマニュアルを整備し、薬に対しての研修も受講している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションの時間にはカルタや風船バレー等を行い、心身のリフレッシュが図れるよう支援している。また季節によって外へ出て、草花を見て気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ数年は感染症の流行で受診や通院以外の外出は出来ていない。	コロナ禍のため、現在、通院以外の外出は、会社の方針で行っていない。そのため、窓からの風景で季節を伝えたり、知人から野菜の差し入れがあり、会話のきっかけとしたりして、季節を感じてもらおうようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等、必要に応じて立替にて対応させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	頻度は少ないが、個別に手紙や電話の取次ぎ介助は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節に合った植物を飾ったり、飾りつけを行い、日常的に聴き慣れた音楽を流して居心地の良い空間作りに努めている。	季節のイベントごとに、季節にあわせて飾り付けに変えて、入居者と作成したタペストリーや飾りが壁に掲示されている。歩ける環境を確保した家具の配置にして、ソファやテレビが設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやテレビを設置し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者同士がくつろげるスペースを設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家で使っていた家具や写真等を持ち込まれている。またレクリエーションの時間に作成した塗り絵やカレンダーを貼っている。	部屋の入口には、住所と氏名が書かれた表札がある。個々の目印になる飾りつけもあり、目安としている。各部屋にトイレがあり、家族やペットの写真、本人の作品が飾られて、居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体状況に合わせ表札を貼ったり、ご本人にわかりやすい目印をつけたり、安全に生活出来る様、動線を確保した物の配置を行っている。		